

ヘルスシステム統合科学研究科(博士前期課程)における3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科では、所定の期間在学し、定められた授業科目を履修して、所定の単位数を取得し、学部教育で学んだ専門知識とそれを応用して課題を創造的に解決する能力を有することを前提として、以下の技能を基本的に修得した学生に「修士（統合科学）」の学位を授与する。

- 学部で学んだ専門領域をさらに深め、また本研究科で学ぶ他専門領域の視座や手法を踏まえて、社会の多様な課題の創造的解決に取り組むことができる。
- 医療や介護の現場、予防的医療や生老病死にかかわる現場を構成するヒトとモノとしくみ（ヘルスシステム）における多様な困難や課題を理解し、研究開発を実施することができる。
- 専門的知識を活用して、課題の記述と解決への貢献ができる。
- 他者との協働のもと社会で活用されるモノやアイデアを創出し課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支えることができる。

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成の方針】

ディプロマ・ポリシーに掲げる自身の専門領域に加えて他専門領域の視座や手法に関する知識、能力と行動力を備え、社会の多様な課題を理解して課題解決に取り組みイノベーションの基盤を支えることのできる高度人材を育成する教育課程を編成します。編成においては、イノベーションのサイクルを構成する4群の活動（①自然・社会（現場）で生ずる課題に対して、②それを観察解析する学術活動を実践し、③課題解決のためのアイデア創出といった構成的活動を行い、④その成果を応用して行動する活動（現場への活用））を考慮しています。これらの4群の活動に対応連携させて、医療や介護の現場、予防的医療や生老病死にかかわる現場を構成するヒトとモノとしくみ（ヘルスシステム）を対象とし以下の二種類の科目群からなる統一カリキュラムを編成して学生に提供し、コースワークによる知識とその応用能力の育成とリサーチワークによる社会実装に必要な実践力や行動力を涵養します。

- ヘルスシステム統合科学としての多様な視座と考え方を養い課題解決能力を高める「統合科目」
コースワークとして、初年次には、統合科学のアプローチや様々な専門領域の視座や手法などの統合科学の基礎を、「ヘルスシステム統合科学序論」、「ヘルスシステム統合科学総論」、および、概論科目により学びます。そして、「医療政策」や「医学研究概論」によりヘルスシステムに関連する医療の状況や課題を理解し、「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」により病院などの現場の課題やニーズを理解して解決方法をグループワークにより考察することにより、イノベーションの基盤を支える能力を向上させます。また、「専門英語」や「技術表現発表学」によりコミュニケーション能力を向上させ、「倫理総論」により科学者倫理や技術者倫理を高めます。さらに、リサーチワークとして、特別研究を通して、新しい科学や技術を切り拓くための実践力や行動力を涵養します。
- ヘルスシステム統合科学を構成する専門分野の知識や思考を前期課程レベルに深化させる「専門科目」
コースワークとして提供される専門科目では、自身の専門領域に関する先端的な科学や技術を学ぶことにより、専門的な立場から課題を記述して社会実装も視野に入れて解決できる高度専門家としての知識や能力を向上させます。

【教育課程における教育・学修方法に関する方針】

- 「統合科目」群では、コースワークとして、ヘルスシステム統合科学の考え方や方法論を学び（「ヘルスシス

テム統合科学序論」), その考え方や方法論について演習を通して身に付け(「ヘルスシステム統合科学総論」), さらに実践的なプラクティス(「先進病院実習」, 「実践ヘルスシステム統合科学」)を通して, イノベーションサイクル活動の実践に必要な知識や能力を育成します。また, ヘルスシステムに関連する現場の状況や課題を理解し, コミュニケーション能力の向上や倫理感も涵養します。さらに, リサーチワークとして, コースワークで学んだ知識や能力を総合的に活用して特別研究に取り組み, イノベーションの基盤を支えるための知識や能力を向上させます。

- 「専門科目」群では, コースワークとして, 専門分野の先端的な手法や技術を学び, 手法や技術を応用する思考を深化させ, 課題やニーズを自身の専門領域の立場から理解して社会実装も意識した研究開発を実践できる専門家としての能力を育成します。

【学修成果の評価の方針】

ディプロマ・ポリシーで掲げた技能を, 以下の方法で厳格に評価します。

- 【統合科学のアプローチや様々な専門領域の視座や手法の理解】
「ヘルスシステム統合科学序論」, 「ヘルスシステム統合科学総論」や概論科目において, 統合科学のアプローチやイノベーションのループへの理解や, ヘルスシステム統合科学に関連する専門領域の視座や基本的手法が身に付いていることを, レポートや受講態度等で評価します。
- 【ヘルスシステムにおける多様な困難や課題の理解】
「ヘルスシステム統合科学序論」や概論科目においては, 様々な専門領域の視座や手法などを理解していること, 「医療政策」や「医学研究概論」では, 医療の状況や課題を理解していること, 「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」では, ヘルスシステムの現場を構成する異なる立場から課題の整理と考察が行えていることを, レポート等により評価します。また, 修士論文の内容により多様な困難や課題の理解度を評価します。
- 【研究開発を実施して創造的解決に取り組む能力】
「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」では, 課題解決策を考察していることをレポート等により評価します。専門的知識や手法を活用して取り組む特別研究においては, 新しい知見が含まれていることや, 新規な手法や技術を創造的に研究・開発していること, また, 社会実装に関する考察をしていることを, 修士論文および中間審査, 最終審査でのプレゼンテーションと質疑応答により評価します。
- 【課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える能力】
専門科目では, 先端的な専門知識や能力を身につけていることをレポートや期末試験等により評価します。また, 「先進病院実習」や「実践ヘルスシステム統合科学」において, 他の専門分野の学生と課題解決に向けた協同の記録や振り返りにより評価します。また, 修士論文とその最終審査により課題解決能力が身に付いているかを評価します。

【教育課程の継続的改善の方法】

- 全学的に実施されている「授業評価アンケート」や「修了時アンケート」などを活用して教育効果を検証し, それをFD研修会や学務委員会などで共有して改善策を検討することにより, 教育課程の継続的改善を行います。

アドミッション・ポリシー

● 求める人材(学生)像

学部専門領域は問いませんが, ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシーを達成するために, 本研究科博士前期課程では次のような資質を持つ人を求めています。

- ・出身学部の専門性に応じて, 学士に相応しい知識・技能・態度を修得している人を求めています。

- ・学部の専門性に加えて統合科学を修めることで、ディプロマ・ポリシーが想定する高度人材として社会に貢献する強い意欲を有する学生を求めています。
- ・自ら選んだ研究分野における基礎研究や応用研究に留まらず、異なる分野の研究手法を積極的に取り入れることに強い興味と意欲を持つ人を求めています。
- ・医療等にかかわる現場を構成するヒトとしくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けての、他者との協働や分野を超えた学際的研究、そして社会実装に強い興味と意欲を持つ人を求めています。
- ・医療等にかかわる現場を構成するヒトとしくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、社会での活用可能なアイデアを現場と連携して創出することに強い興味と意欲を持つ人を求めています。

● 入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬と推薦選抜の3回実施し、合格者は4月（外国人特別選抜は10月入学あり）に入学します。入学選抜試験では、様々な能力や得意分野、異なる背景を持った多様な学生がこれまでに培ってきた人間性に富む豊かな教養や専門性について、筆記試験や口述試験等により評価します。

一般入試

原則として筆記試験・論述試験と口頭試問・面接を課しています（ヘルスケアサイエンス部門は書類審査、口頭試問・面接のみ）。筆記試験・論述試験では、当研究科に必要な素養を問う課題を課し、理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。また志望する教育研究分野の専門科目により、専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性などについて志望する研究分野の教員が評価します。

推薦入試

口頭試問・面接を課しています。口頭試問・面接では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性などについて志望する研究分野の教員が評価します。

外国人留学生特別入試

ヒューマンケアイノベーション部門では、筆記試験・論述試験と口頭試問・面接を課しています（ヘルスケアサイエンス部門は書類審査、口頭試問・面接のみ）。筆記試験・論述試験では、当研究科に必要な素養を問う課題を英語または日本語で課し、理解力、解答の表現能力等を総合的に評価します。また志望する教育研究分野の専門科目により、専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学部で修得した専門性、人間的信頼性、就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。

● 学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般入試	☆	口頭試問・面接	◎	一般科目 専門科目 英語	☆	口頭試問・面接
推薦入試	☆	口頭試問・面接	◎	口頭試問・面接	☆	口頭試問・面接
外国人留学生特別入試	☆	口頭試問・面接	◎	英語又は日本語	☆	口頭試問・面接

（注）◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

ヘルスシステム統合科学研究科(博士後期課程)における3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科では、所定の期間在学し、定められた授業科目を履修して、所定の単位数を取得し、現場の課題を整理し建設的な仮説を立てることが出来、その仮説を諸専門の手法を組み合わせながら適切な科学的方法で証明できる研究能力を有することを前提として、以下の技能を基本的に修得した学生に「博士（統合科学）」の学位を授与する。

- 医療や介護の現場、予防的医療や生老病死にかかわる現場を構成するヒトとモノとしくみ（ヘルスシステム）における多様な困難や課題を理解し、研究及び技術開発を実施することができる。
- 統合科学のアプローチの理解と、課題解決に貢献する専門知識を身に付けている。
- 物質面及び人間の理解を併せ持つことで、個人の専門分野を活かしつつ他分野を理解して、社会において活用されるモノやアイデアを他者と協働して創出できる。
- 自ら方針を示して課題の解決に貢献し、イノベーションの基盤を支える研究及び技術開発の能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成の方針】

ディプロマ・ポリシーに掲げるヘルスシステムにおける課題の理解、統合科学のアプローチの理解、自身の専門領域に加えて物質面や人間の理解、自ら方針を示して課題解決に取り組みイノベーションの基盤を支える研究及び技術開発能力を備えた高度人材を育成する教育課程を編成します。編成においては、イノベーションのサイクルを構成する4群の活動（①自然・社会（現場）で生ずる課題に対して、②それを観察解析する学術活動を実践し、③課題解決のためのアイデア創出といった構成的活動を行い、④その成果を応用して行動する活動（現場への活用））を考慮しています。これらの4群の活動に対応連携させて、ヘルスシステムの現場を構成するヒトとモノとしくみ（ヘルスシステム）を対象とし以下の二種類の科目群（コースワーク）と博士研究（リサーチワーク）からなる統一カリキュラムを編成し、学生に提供します。

- コースワーク
 - ヘルスシステム統合科学のアプローチの理解と現場の課題の理解と問題解決能力を向上させる「統合科目」
初年次には、「ヘルスシステム統合科学特論」により、統合科学のアプローチやヘルスシステムに関する最新の課題を学びます。その後、2つの演習科目により、ヘルスシステムに関連する現場の課題やニーズの理解能力や、課題解決して社会実装する能力を涵養します。
 - ヘルスシステム統合科学を構成する専門分野の知識や思考を高度化させる「専門科目」
専門科目では、自身の専門領域に関する先端的な科学や先進的な技術を深めることにより、専門的な立場から課題を記述して社会実装も視野に入れて解決できる高度専門家としての知識や能力を向上させます。
- リサーチワーク（博士研究）
博士研究では、設定した研究課題に取り組んで社会実装も視野に入れた学術的成果を得ることにより、自立した研究者や技術者として、自ら方針を示して課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える研究及び技術開発の能力を身に付けます。

【教育課程における教育・学修方法に関する方針】

- コースワークの「統合科目」では、「ヘルスシステム統合科学特論」により、統合科学のアプローチやヘルスシステムに関する最新の課題を講義により学びます。また、2つの演習科目の履修を通して、ヘルスシステムに関連する現場の課題やニーズの理解能力や、他研究機関や企業の専門家や技術者と共同して課題解決及び社会実装する能力を涵養します。

- コースワークの「専門科目」では、自身の専門分野に関連する先端的な科学や先進的な技術に関する講義を選択して履修することにより、専門的な知識や技術を現場の課題解決に応用する思考を深化させ、課題やニーズを自身の専門領域の立場から理解して社会実装も意識した研究開発を実践できる専門家としての能力向上を図ります。
- リサーチワークでは、博士研究において、設定した研究課題に取り組んで社会実装も視野に入れた学術的成果を得て、国内外での学会やシンポジウムでの発表や学術誌論文の執筆により、自立した研究者や技術者として、自ら方針を示して課題の解決に貢献しイノベーションの基盤を支える研究及び技術開発の能力を身に付けます。

【学修成果の評価の方針】

ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を、以下の方法で厳格に評価します。

- 【ヘルスシステムにおける多様な困難や課題の理解】

ヘルスシステムにおける多様な困難や課題を理解していることを、「ヘルスシステム統合科学特論」や2つの演習科目のレポート等で評価します。また、博士研究の中間審査会における自身の研究のヘルスシステムの課題との関連性の説明でも評価します。

- 【統合科学のアプローチの理解と専門知識の修得】

「ヘルスシステム統合科学特論」において統合科学のアプローチを理解していることをレポートにより評価し、また、問題解決に貢献する高度な専門知識を有していることを、専門科目のレポートや受講態度などにより評価します。さらに、博士研究の中間審査会や学位審査会では、博士学位授与に値する専門知識を有していることを、両審査会でのプレゼンテーションや質疑応答、および、学位論文の内容により評価します。

- 【物質面及び人間の理解と他者と協同した創出能力】

「ヘルスシステム統合科学特論」及び統合科目の2つの演習科目において物質面及び人間の理解と他者と協同した創出能力が身に付いているかを、レポート等により評価します。また、専門科目のレポートや受講態度により、物質面あるいは人間についての理解の程度を評価します。

- 【自立的な課題能力とイノベーション能力】

自立的な課題能力とイノベーション能力が備わっているかを、博士研究の中間審査会や審査会でのプレゼンテーションや質疑応答及び学位論文の内容により評価します。

【教育課程の継続的改善の方法】

- 全学的に実施されている「授業評価アンケート」や「修了時アンケート」などを活用して教育効果を検証し、それをFD研修会や学務委員会などで共有して改善策を検討することにより、教育課程の継続的改善を行います。

アドミッション・ポリシー

- 求める学生像

専門領域は問いませんが、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを達成するために、本研究科博士後期課程では次のいずれかの資質を持つ学生を求めています。

・豊かな教養と高い倫理意識を有し、大学院博士前期課程修了レベルの知識、能力を修得した学生で、医療等にかかわる現場を構成するヒト・モノ・しくみ（ヘルスシステム）の諸課題を学際的手法により解決することで、人類の幸福に貢献しようとする強い意欲がある学生。

・医療等にかかわる現場を構成するヒト・モノ・しくみ（ヘルスシステム）の課題解決に向けて、自ら選んだ

研究分野における基礎研究や応用研究に止まらず、豊かな教養と高い倫理意識を持って社会での活用可能なアイデアを自ら創出することに強い興味と意欲を持つ学生。

● 入学者選抜の基本方針

様々な背景をもつ多様な学生の入学機会を確保するために2種類の入学者選抜試験を毎年7回実施し、合格者は4月・10月に入学します。入学選抜試験では、様々な能力や得意分野、異なる背景を持った多様な学生がこれまで培ってきた人間性に富む豊かな教養や専門性について、口頭試問と書類審査により評価します。

一般入試

書類審査と口頭試問により、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学術的専門性、人間的信頼性などについて志望する研究部門の教員が総合的に評価します。

外国人留学生海外特別入試

書類審査により、専門科目に関する知識、理解力や研究計画の具体性、志望度、学術的専門性、人間的信頼性などについて志望する研究部門の教員が総合的に評価します。

● 学力の3要素対応表

選抜の種類	知識・技能		思考力・判断力・表現力 等の能力		主体性を持って多様な 人々と協働して学ぶ態度	
一般入試	☆	口頭試問・書類審査	◎	口頭試問・書類審査	☆	口頭試問・書類審査
外国人留学生海外 特別入試	☆	書類審査	◎	書類審査	☆	書類審査

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。